



学校だより

5月号

令和4年4月28日

～ まちのみんな ひとつになあれ ～



「生活習慣」

学校長 後藤 直樹

授業中の教室をまわっていると、たまたま目が合った子が微笑みかけてくれます。不思議とそれはマスクをしていても感じ取れるものです。学習の邪魔をしてはいけませんので、頑張っていますね！という思いを込めて微笑み返します。1年生の教室を通りかかった時のことです。ちょうど休み時間だったのでほとんどの子どもたちは校庭に出ていました。子どもたちが教室で活動している時間には気づきませんでした。教室のロッカーが美しい模様になっています。それはきちっと同じ向きに整頓されたランドセルです。そのあと6年生の教室を覗いてみると黄色のカバーこそありませんが、そこにもカラフルで美しい模様がありました。この置き方は入学当初に指導され、習慣として子どもたちの中に定着しています。ランドセルの形状は、成長過程にある子どもたちの肩や背骨への負担を最小限にとどめるだけでなく、後ろ向きに転倒したときに後頭部を守ってくれるという優れた機能性ももっているとも言われています。しかし、それを収納するとなると意外に厄介です。しっかりとした肩のベルトや長くて大きな蓋ふたのカバーは、小さなロッカーの中でとても大きなスペースを占めてしまいます。おまけにうっかりするとロッカーの中から滑り落ちてきます。中身の出し入れができ、限られたスペースを有効に使える安定した置き方がこの横向きの形なのです。個性を尊重し豊かな想像力を伸ばしていくという教育方針の大前提はありますが、効率的な整理整頓の習慣やあいさつなどのコミュニケーションの基本は、体が自然にそう動くように習慣化させていくことも大切だと考えています。整頓され、清潔感のある環境の中で育った子どもたちは、そうでない環境に置かれたときに違和感を覚え、使いやすく整えようと努めるに違いありません。また、整理整頓の能力は、記憶や思考のメカニズムにも大きく関わっていると考えられます。一人ひとりの個性を大切にしながらも、こうした基本的な生活習慣の定着にも力を注いでいきたいと思ひます。



1年生のロッカー



6年生のロッカー